

じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺



境内の枝垂れ梅

新たな年度を迎えて

浄慶寺住職 大塚 展彦

いよいよ新年度が始まる季節です。お寺の新年度は、一般的な時期と違い7月ですが、今年は、浄慶寺をはじめ福岡市・糸島市に所在する真宗大谷派寺院17か寺で構成される筑前西組、各地域の「組」を県単位の規模で構成される久留米教区、全国の教区で構成される真宗大谷派が機構を大きく改編する年となります。

筑前西組は、筑前東組(北九州市・宮若市に所在する13か寺)と合併して福岡組となります。さらに、19の組で構成される久留米教区(福岡県西部と佐賀県)は、日豊教区(大分県と福岡県東部)、長崎教区、熊本教区、鹿児島教区と共に「九州教区」となります。

また、全国にある30の教区は17教区に改編されます。「教区・組」という機構は、明治新政府による廃藩置県、その後の中央集権的体制を固めるための廃仏毀釈運動といった宗教政策が押し進められるなかで、各宗派が信仰の自由と、宗教の政治からの自由を守る為に法規、機構を整備した事に始まったようです。

昨年、来日されたローマ教皇のカトリック教団では、全国に16の教区があり1人の司教が管轄します。福岡教区(福岡県・熊本県・佐賀県)には55の小教区(地域教会)があります。

また「教区」は「司教区」とも呼ばれ世界中の司教区をローマ教皇が管轄します。

ところで、キリスト教の信者の方は「聖なる公同の教会を信ず」という祈りを捧げられます。

主なる神とイエスと共に「教会」の為に祈ります。

この時、教会とは、「教区」も含み信仰の共同体を意味します。

それは、私たち仏教徒が称える三帰依文「佛・法・僧(サンガ・信仰の共同体の実現)を信ず」の内容とも共通しているようです。現在、全国には8900の真宗大谷派寺院があります。

マスコミは宗教団体の疲弊を盛んに取り上げます。しかし、新たな寺院が生まれている地域、参詣者が増えている寺院、願いを持ったやる気のある青年僧侶は多くいます。

教団は常に問題を抱えています。

歴史の歯車となって大きな過ちもおかしました。けれども、その衰退を傍観するのではなく、困難を重ねてきた先人が称え続けてきた三帰依の心を大切にして新たな年度を迎えたいと感じています。

時の移ろい

一 港町界隈のこと一

責任役員 山口 由利子



我が家に一番近いバス停は、今も『港銀座通り』という。
昔恋しい銀座の柳……なんて古い歌謡曲があったけど関係あるのかも……(私も古い人よね)。
確かに昔は柳並木もあって船から上がったおいさんやお兄さん達が、懐にたんまりお金を忍ばせて
颯爽と歩いていた通りだった。

夫は、この町の浜が遊び場だった人。私は、どことなく生臭い風が吹くこの町になど絶対に住みたく
ないと思っていた。

その望み通り、海から遠い学問の神さまの近くで子育てをし、家のローンも終わり、さてと考える間も
なく、諸事情が重なり、止むなく振り出しの港町に戻るはめになった。

すでに港に漁船の姿はなく、整備された周辺にはワンルームや高層マンションが林立、アクセスの
良さが現代にマッチした新しい街に生まれ変わっていた。

若い頃、あんなに嫌っていた港町の急速な変化に、私自身が戸惑い驚いてしまった。

私は、この町のとおり組長を引き受けて、すでに八年目である。

やはり、他所様と同じように交替可能な若い家族が居ない悩みを抱えている。

穏やかなビルの谷間の暮しは、昔ながらの人情があり温かく、店先の罪のないおしゃべりに
老いの花が咲く。

幸せなことにすっかり浜風に染まってしまう、川柳のネタもちゃっかりいただいているのである。

これは内緒……！

本堂で通夜・葬儀ができます

お寺本堂での通夜・葬儀を希望する場合は以下の手順です。

①お寺(住職)に、ご一報をお願いします。(住職携帯電話:090-2318-3268)

②下記の何れかの葬儀社を選択して、『浄慶寺の門徒です。本堂でお通夜・葬儀を依頼します』と
お伝え下さい。

◇みんせい葬祭・福岡市博多区大博町(担当者:竹内)

092-271-7422(24時間受付)又は090-1342-0006(24時間受付)

◇お葬式のあおやぎ・福岡市早良区飯倉(担当者:龍相=りゅうそう)

092-865-4400(24時間受付)

※本堂でのお通夜の時間は、午後10時までと、させていただきます。

※お寺での宿泊は出来ませんので、ご了承ください。

※お通夜のみ、自宅か葬儀社斎場での執行で、葬儀は本堂での
執行も可能です。



真宗（大谷派・東本願寺）への導き 《第十二回》

三帰依文(さんきえもん)



「仏」「法」「僧」を仏教では三宝(さんぼう)といいます。
 三宝はそれぞれ、「仏」は、悟りに目覚めた人(釈迦)、
 「法」は、その「仏」の教え(南無阿弥陀仏)、「僧」はその教えを共に求め歩む共同体、場所、時を
 表すと受けとめることができます。
 み仏であるお釈迦さまを敬い、その説かれた教えを大切に守り、そしてその教えを学ぶ人々の集まりを
 大切にいたしますと唱えているのです。

三帰依文

人身受け難し、いますでに受く、仏法聞き難し、いますでに聞く。この身今生において度せずば、
 さらにいずれの生においてかこの身を度せん。大衆もろともに、至心に三宝に帰依し奉るべし。
 自ら仏に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、大道を体解して、無上意を発さん。
 自ら法に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、深く経蔵に入りて、智慧海のごとくならん。
 自ら僧に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、大衆を統理して、一切無碍ならん。
 無上甚深微妙の法は、百千万劫にも遇うこと難し。我いま見聞し受持することを得たり。
 願わくは如来の眞実義を解したてまつらん。

三帰依文意識

この世に人として身に受けることは、私の思いをはるかにこえたことでもあるにもかかわらず、
 私は今すでにここにこの身をうけておりました。出遇い難い仏法に、はからずも今、私は出遇うことが
 できました。ここに生きている私が、今、救われなければ、いったいいつになったら救われるというので
 ありましようか。だからこそ、今、あらゆる人々と共に私の全てを尽くして心から仏・法・僧の三宝を尊び、
 それを依りどころとして生きていきたいと願わずにはいられません。

私は、仏(ブツ)を尊び、それを依りどころとして生きていきます。それは、あらゆる人々と共に、
 眞実の法を明らかにされた正しい仏の道をこの身にうなずき、人間を成就する大いなる心が
 おこることを願うからにはほかなりません。

私は、法(ダルマ)に目覚めて、それを依りどころとして生きていきます。それは、あらゆる人々と共に、
 眞実の教えを深く求め、あたたかも海のように深く限りない智慧をいただくことを願うからにはほかなりません。

私は、僧(サンガ)を敬い、それを依りどころとして生きていきます。それは、あらゆる人々と共に、
 仏法によって生きる平等で自由な集い(世界)が開かれたことを願うからにはほかなりません。

この上なく奥深く尊い眞実の法は、どれだけ長い時間をかけても出遇うことは大変むずかしいものです。
 そうであるのに、私は今、その眞実の法に出遇うことができ、その眞実の法を依りどころとして生きる身と
 なることができました。ここに、聞法の生活をとおして、本当にこの身に生きてはたらく阿弥陀如来の
 眞実を、私のいのちの中に明らかににしていきたいと願っています。



行事予定

- 永代経法要 5月16日(土)~17日(日)
両日とも13時30分から
- 盂蘭盆会法要 8月13日(木)~15日(土)
本堂開放 8月11日(火)~15日(土)
- 秋の彼岸法要 9月22日(祝・火)
本堂開放 9月19日(土)~22日(祝・火)
- 報恩講準備(おみがき) 11月11日(水)
- 報恩講 11月14日(土)・15日(日)

文芸欄

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

終章ではたと答を見失なう

きらきらの気分シネマが乗り移る

胸の内吐いていらんと母の膝

虫の目で辿ってみよう落し物

川柳

山口由利子

坊守のついで

最近観た映画「日日是好日」の感想です。『世の中には、「すぐ分かるもの」と、「すぐ分からないもの」の二種類がある。』というセリフから始まります。茶道教室が舞台です。生徒たちは「お茶を飲み干す時にはズズッと音を立てる、茶室に入る時は左足から」などの作法に戸惑い、理由や意味を質問します。樹木希林演じる先生は『意味なんてわからなくていいの。お茶はまず「形」から。先に「形」を作っておいて、その入れ物に後から「心」が入るものなのよ』と答えます。

その言葉を聞いた時に、「南無阿弥陀仏」とお念仏を口に称えることも「すぐにわからないもの」の一つだなあと感じました。頭で考えるよりも、「まずやってみる」こと。称えるごとに心に響いてくる何かを感じ取ること。行ずる生活を生涯を通して味わっていく。「形」が先って深いですね。



南無阿弥陀仏



編集後記

山門をくぐっての参詣は気持ちの良いものですね。春のやわらかな風が、いっそう快く感じられます。じょうけいの2面へ体験談や趣味の話などの寄稿をお願いします。

本堂で
ご命日の集いへのお誘い

毎月28日13時30分から親鸞聖人のご命日のつどいを、本堂にて開催しております。親鸞聖人のご命日が28日であります処から、この日に門徒が集い正信偈を、お勤めしております。また、写経やお経の練習なども行い、お茶を飲みながら語らいの時も過ごしております。どうぞ自由に参加してみてください。時間 13:30~16:00頃まで (※出入り自由です)



じょうけい 第12号

《発行》
真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
浄慶寺門徒会 川嶋正實
〒810-0063
福岡市中央区唐人町3-10-49
《編集》
浄慶寺寺報編集担当 塩川大一